

3. 島根県奥出雲町

1-1 町の概要

奥出雲町は島根県の東南端に位置し、中国山地に囲まれた自然豊かな地域です。総面積は368.06平方キロメートルで、広島県と鳥取県に接している。古くから「たたら製鉄」の歴史を持ち、伝統文化が息づいている。2024年1月1日時点で総人口は11,339人で、男性5,452人、女性5,887人である。65歳以上の高齢者は全体の45.4%を占め、全国平均の28.7%を大きく上回っている。また、20歳から39歳の若年女性人口は753人で、総人口の6.3%にとどまり、全国平均の10.3%を下回っている。このように、少子高齢化と若年層の減少が顕著であり、地域社会の持続可能性が課題となっている。町の主要産業は農林業で、特に高品質な米やそばの生産が特徴的である。しかし、農業従事者の平均年齢が67歳を超えるなど、高齢化と後継者不足が課題となっている。また、商業やサービス業の規模は小さく、地域経済の多様化が求められている。自然の豊かさや治安の良さに対する住民の満足度は高い一方で、公共交通機関や買い物、医療機関の利便性に対する不満の声が多くある。特に、公共交通機関の利便性に関しては、他の町村と比較しても評価が低く、生活環境の改善が必要とされている。奥出雲町の横田高校は、ホッケー競技で全国的な強豪校として知られている。部員は男女ともに地域内外から集まり、全日本選手権やインターハイでの活躍が注目されている。この活動は、町内の若者の定住促進や地域の活性化に寄与している。ホッケーを通じた地域の誇りとスポーツ振興は、他地域における地方創生のモデルとしても注目されている。奥出雲町では、デジタル技術を活用して地域課題を解決する取り組みを進めている。スマート農業の導入や観光資源のデジタルマーケティング、行政サービスのオンライン化により、地域活性化を目指している。特に、日本ホッケーリーグの社会人チームセルリオ島根や小中学生が利用しているホッケーグラウンドではAIカメラが導入され、地域外からの関心を集めている。本事業を通じて、外部専門家の知見を活用し、地域課題の解決策を模索する。特に、少子高齢化や産業振興、生活環境の改善に向けた具体的なプロジェクトを展開し、その成果を全国に発信することで、他地域のモデルケースとなることを目指す。

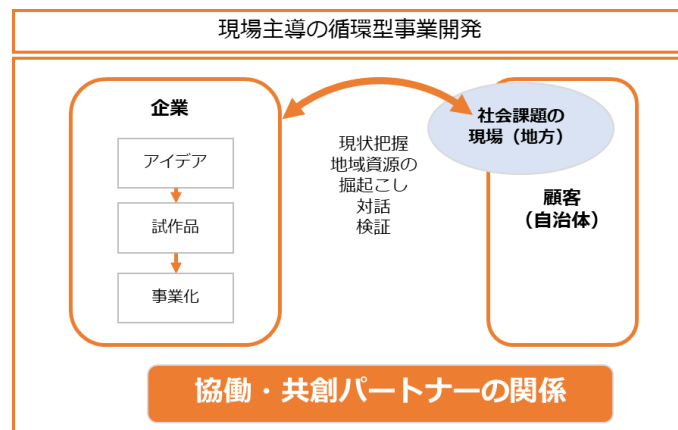
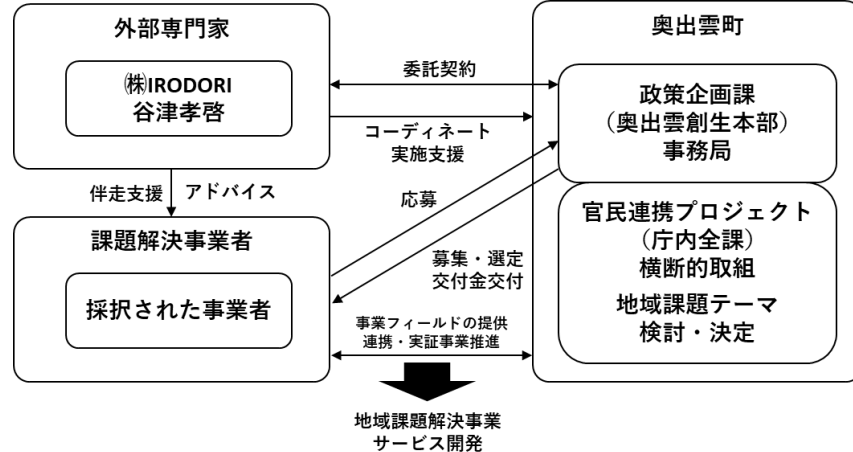
1-2 事業の概要

本事業は令和5年度から開始している奥出雲町企業版関係人口創出事業をより拡充させる形で展開していく。具体的には行政職員が中心となって実施している官民連携プロジェクト会議において本町の地域課題の可視化を行う。テクノロジー等を用いた実証実験で大切なのは地域で暮らす住民と連携を希望する企業の信頼関係の構築であり、官民連携プロジェクトで可視化したテーマで企業を募集し、町や地域と連携できる企業と事業を採択する。採択した企業とは協働・共創のパートナーとして、行政と企業がともに連携し、現状把握や地域資源の掘り起こし、対話等を通じて導き出したことを実証実験として行い、地域課題解決を図る。

1-3 事業の構成



本事業は、7つのステップで進める。最初のステップとして、官民連携の地域課題解決のテーマを抽出・設定するため、庁内全課の各課担当職員を参集し、官民連携プロジェクト会議を実施し、地域課題を可視化し、その中から総合計画、総合戦略、緊急性、町への効果を考慮し募集テーマを決定する。次に、課題解決に対応可能な企業を全国に公募し、事前相談も行いながら、課題解決テーマに最適な企業を決定。協働・共創のパートナーとして、担当課と連携し、現状把握や地域資源の掘起こし、対話等を通じて実施内容を決め実証実験を行う。年度末には、事業検証を行い、実証実験の成果から本格的な事業として取り組めるかどうか等を検討し進めていく。



1-4 事業の実施内容

(1) 企業版関係人口企業の募集と採択

1) 奥出雲町をフィールドに課題解決に挑戦する企業の募集

令和6年度に実施した庁舎内全課の各課の業務を把握している職員を対象とした官民連携プロジェクト会議にて可視化された課題解決テーマから企業版関係人口創出に向けて推進したいテーマを下記の6つに絞り、令和7年4月22日(火)～5月22日(木)まで企業の公募を行い、事前相談を応募の必須条件としており、応募期間中の5月15日(木)まで相談期間を設けた。

- ・有機農業・スマート農業の推進
- ・移住後のサポートプログラム（スキルアップ移住）
- ・婚活イベントの実施や仕組みづくり
- ・脱炭素社会の実現に向けたGXの推進
- ・行政DX・地域DXの推進
- ・その他（フリー提案）

奥出雲町 企業版関係人口創出プロジェクト事業

奥出雲町をフィールドに地域課題の解決に挑戦する実証実験の提案募集

企業版関係人口創出プロジェクトとは
奥出雲町は地域課題を行政だけでなく民間企業の皆様と連携しながら共に解決していく継続的・持続的な仕組みづくりを目指しています。

奥出雲町をフィールドに実証実験を希望する民間企業を公募します
令和5年度、令和6年度に「官民連携プロジェクト会議」を実施し、各課の職員が民間企業と連携することで解決していきたい地域課題を整理し、実証実験の公募テーマとしました。

事前相談期間（応募必須）**4/22(火)～5/15(木)**
応募期間**4/22(火)～5/22(木)**
サポートの内容や公募テーマ例は裏面へ▶▶▶

サポートの内容
専門家がプロジェクトを伴走支援します
町内の実証実験フィールドの提供
モニターとなる地域・団体・企業等の募集支援
地域や関係団体等との調整
法制度に関するアドバイス
行政データの提供
広報等プロモーション支援

公募テーマの例

有機農業・スマート農業の推進 化学肥料や農薬に頼らない有機農業や、AI・IoT・ロボット技術を活用したスマート農業の導入に向けた実証実験	移住後のサポートプログラム（スキルアップ移住） 移住者が地域に定着しやすい環境を整えるため、デジタルスキルを活かした在宅ワーク支援やスキルアップ研修を提供する実証実験	婚活イベントの実施や仕組みづくり 地域の結婚支援を強化するため、婚活イベントの開催や婚活サポート人材の育成を目的とした実証実験
脱炭素社会の実現に向けたGXの推進 畜産地域や山間部の地域特性からくる課題の解決（再生エネルギーの活用など）と、地域特性を生かした再生可能エネルギー導入の実証実験	行政DX・地域DXの推進 AI 専任的なソリューションの導入や拡充、SNS・Web 活用による情報発信を通じ、行政や地域企業のデジタル活用を促進する実証実験	その他のテーマ（フリー提案） 本町の課題解決や行政サービスの向上等に資する実証実験

実証実験までの流れ

- 1 交付申請書提出
申請書・事業計画書など
5月下旬
- 2 審査委員会審査
申請書の審査
6月中旬
- 3 選考結果通知・交付（不交付）通知
6月下旬
- 4 事業の実施
6月下旬～

令和6年度は連携企業2社を採択し、実証事業開始しました

奥出雲町役場 政策企画課
〒690-1511 鳥取県三好郡奥出雲町三成 358-1
MAIL: kikaku@town.okuyama.tokushima.jp
TEL: 0854-94-2514

令和6年度の実証実験を度

2) プレゼン審査会と企業の採択

公募の結果、4社から応募があり、令和7年6月5日(木)に審査会を行い、令和6年度からの継続2社、新規2社、計4社を採択し、採択企業とテーマが下記のとおり決定した。

- ・採択テーマ：地域資源を活かしたスポーツ合宿の誘致や仕組みづくり
企業名：株式会社ランブリッジ（継続）
事業名：奥出雲式スポーツ合宿受け入れ体制構築の実証実験
- ・採択テーマ：地元企業への就業をセットにした新たな移住定住施策の推進

企業名：ディップ株式会社（継続）

事業名：奥出雲町での仕事体験をきっかけとした移住就労促進事業

- ・採択テーマ：婚活イベントの実施や仕組みづくり

企業名：株式会社オミカレ

事業名：若者の出会いと地域の未来を支えるユーザー・主催者双方に向けた婚活支援

- ・採択テーマ：有機農業・スマート農業の推進

企業名：株式会社坂ノ途中

事業名：有機農業を切り口とした新規就農者誘致および伴走支援

dip

Labor force solution company

奥出雲町での仕事体験をきっかけとした
移住就労促進事業

都市部の求職者が多く利用するディップの求人サイト「バイトル」にて、奥出雲町の魅力をPRする特設ページを設け、奥出雲町内の企業5社（株ニッポー、仁多郡森林組合、大塚ファーム、森田醤油店、株奥出雲振興）の求人情報を掲載し、都市部の求職者が奥出雲町内の企業で「しごと体験」をする機会を提供し、仕事の魅力だけでなく地域の方々との関わりを深めることで、就労を通じた移住を促進していく。

R7年度の取組み

- ① バイトルへの奥出雲町特設ページの開設（継続）
- ② 奥出雲町の魅力PRする特設ページの充実
- ③ 求人情報企業への取材・紹介記事作成・掲載 等



オミカレ

若者の出会いと地域の未来を支えるユーザー・主催者双方に向けた婚活支援

婚活を始めたいが方法がわからない住民向けに、最新の婚活トレンドを学び、自分に合った方法を知る機会を提供。さらに、地域の婚活イベント主催者や行政職員向けにセミナー、交流会を実施することで、地域内に婚活支援人材を育成し、今後の継続的な結婚支援活動の実現につなげる。

3年間の段階的な取り組みを通じて、出会いを求める人々に「最初の一步」を届け、奥出雲町の関係人口創出と地域活性化に貢献する。

R7年度の取組み

- ① 婚活意識、結婚意欲、出会いニーズ等のアンケート調査
- ② 出会い応援セミナーの開催
- ③ 町主催イベント・ツアーの貴社サイトへの掲載 等



RUNBRIDGE

奥出雲式スポーツ合宿受け入れ体制構築の
実証実験

日本一の「ホッケーの町 奥出雲町」の地域資源（AIカメラ、オリンピックの指導、仁多米、マッチアップ相手（セルリオ島根、横田高校）を活かしたスポーツ合宿の誘致や仕組みづくりを行う。令和7年8月に早稲田大学女子ホッケー部がモニターとしてホッケー合宿に来町。本格的な合宿誘致に向け、ヒアリングを行い、合宿の仕組み等をブラッシュアップしていく。

R7年度の取組み

- ① 早稲田大学女子ホッケー部モニター合宿受入コーディネート
- ② モニターアンケート結果集計・分析・振り返り
- ③ スポーツ合宿受入体制の仕組みづくり 等



株式会社 坂ノ途中

有機農業を切り口とした新規就農者誘致
および伴走支援

奥出雲町内の既存農家や地域住民に対し、有機農業のメリットや可能性に関する説明会・ワークショップを開催し、有機農業への理解と関心を深めるとともに、既存農家へのヒアリング、耕作放棄地の状況調査、流通・販売チャネルの現状把握などを実施し、新規就農者誘致に向けた課題を具体的に抽出。来年度以降の事業推進に向け、「奥出雲町新規就農者誘致マスタープラン（仮称）」を策定予定。

R7年度の取組み

- ① 有機農業に関する現地調査・ヒアリング・課題抽出
- ② 流通・販売チャネルの現状把握
- ③ ロールモデルとなる方への伴走支援 等



(2) 課題解決のための実証事業の実施

1) 実証事業の取組み

本町の地域課題解決につなげる仕組みを構築していくため、採択企業4社と共創し実証事業に取り組んだ。

「奥出雲式スポーツ合宿受け入れ体制構築の実証実験」については、令和7年8月8日(金)～10日(日)2泊3日で早稲田大学女子ホッケー部にモニターとしてホッケー合宿に来町いただき、強豪校である横田高校女子ホッケー部、島根県成年女子とのトレーニングマッチやオリンピックによる指導等を体験、来年度以降の本格的な合宿誘致に向け、監督・コーチ・選手に合宿環境等についてヒアリング・アンケートを行った。

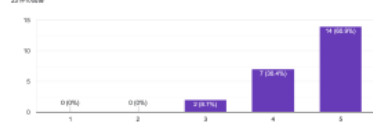
奥出雲式スポーツ合宿受け入れ体制構築の実証実験
【8/8～8/10 早稲田大学女子ホッケー部モニター合宿】



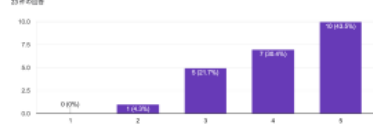
奥出雲式スポーツ合宿受け入れ体制構築の実証実験
【2泊3日 引率者(スタッフ含む)9名、選手15名 来町】



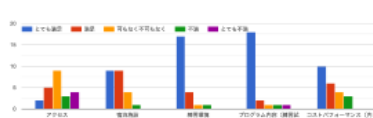
Q1 奥出雲でのホッケー合宿の満足度を教えてください
22名の回答



Q2 来年度以降も奥出雲での合宿を実施したいと思いますか?
22名の回答



Q3 今後の合宿について、各項目の満足度を教えてください



サマリ

- ・全体的な満足度は非常に高い。列举された理由も以下のように多岐に渡る。
練習環境：AIカメラの活用、コーチングプログラム、強豪かつ異なる年代の対戦相手、スプリングラー
滞在環境：食事の質の高さ
その他に、非常に涼しかったとの回答が複数見られたが、この点をアピールポイントにできるかは慎重になる必要があると考えられる。
- ・満足度と比例して再訪意向も高い結果となったが、比較すると若干低い結果となった主な要因は、奥出雲までのアクセスにかかるコスト（時間、費用）の高さが主な要因であることが分かる。
- ・プログラム外の出雲大社の訪問や、奥出雲への観光での再訪に関するコメントもあり、意識的にプログラムに組み込むことを検討できる余地があると考えられる。
- ・その他、改善点のヒントとなり得る主な回答は以下の通り
 - ホテルと練習場のビストン送迎はシャトルバスを出すなどする（ありがたい回答がある一方で、「申し訳ない」という回答が目立った）
 - 宿泊施設のコインランドリーが1台で稼働が足りない
 - 練習場の更衣室とトイレの老朽化（悪臭）

27

「奥出雲町での仕事体験をきっかけとした移住就労促進事業」については、都市部の求職者が多く利用するディップ株式会社の求人サイト「バイトル」に、本町の魅力

をPRする特設ページを設け、奥出雲町内の企業2社（㈱奥出雲振興、㈱アグリベスト）の求人情報を掲載し、都市部の求職者が奥出雲町内の企業で「しごと体験」をする機会を提供するとともに、仕事の魅力だけでなく本町の魅力も知っていただく取組を行い、就労を通じた移住機会の創出を行った。問い合わせは10件あったが、しごと体験の体験者は0名であった。

奥出雲町での仕事体験をきっかけとした移住就労促進事業
【10/1～求人サイト「バイトル」に奥出雲町特設ページを開設】





奥出雲町での仕事体験をきっかけとした移住就労促進事業
【2025/10/1～2026/1/31 求人サイト「バイトル」に奥出雲町特設ページを開設】



特設ページ

求人詳細

求人応募

奥出雲町でのしごと体験

掲載期間：2025年10月1日～2025年12月11日

ページ訪問者：2,253名

ページ訪問者：2,131名

求人応募：10件

しごと体験・見学：0名

「しごと体験」に向けて歩留まりを今後どこまで高めていけるかが課題

【歩留まり改善の方向性】

- ・特設ページの改善（暮らしや仕事の魅力PR向上）
- ・オンライン上での関わりを増やす
- ・地域企業の事務業務やデザイン業務を切り出してリモートアルバイト等
- ・町内求人の変種を増やす
- ・求人応募者に対するフォローアップ（オンライン面談）

25

「若者の出会いと地域の未来を支えるユーザー・主催者双方に向けた婚活支援」については、婚活を始めたいが方法がわからない住民向けに、最新の婚活トレンドを学び、自分に合った方法を知る「恋愛力アップデートセミナー」を開催。当日は14名の参加があり、参加者アンケートでの満足度は約90%の参加者が「参加して良かった」と回答され、「マッチングアプリについて、知識がなかったが理解が深まり、有意

義な時間だった」「想像していたよりも婚活サービスの安全性が高いと感じた」「与えられた出会いを待つ」のではなく、自ら行動する姿勢（やる気）が重要だと感じた」等の感想をいただき、本セミナーが参加者の行動変容を促す契機となったことがうかがえた。あわせて、参加者は少なかったが、出会いに対する不安や固定観念の解消につながるるとともに、主体的に一步を踏み出す意識醸成に一定の効果があったものと評価できる。さらに、地域の婚活イベント主催者や行政職員向けにセミナーや交流会を実施することで、地域内に婚活支援人材を育成し、今後の継続的な結婚支援活動の実現につなげる。

**若者の出会いと地域の未来を支えるユーザー・主催者双方に向けた婚活支援
【9/4～11/30 出会い・結婚に関するアンケート／恋愛力アップデートセミナー】**

オミカレ

アンケートのお願い

所要時間 5分

奥出雲町では結婚支援の参考とするため、**独身の方を対象に「出会い・結婚に関するアンケート」を実施します。**
気軽な気持ちでぜひ回答にご協力ください！
よろしくお祈りします！！



奥出雲町つながりづくり協議会
奥出雲町役場 定住産業課

【奥出雲町】出会い・結婚に関するアンケート

このアンケートは、奥出雲町で結婚支援の参考とするため、独身の方を対象に実施しています。回答は匿名で集計されます。回答内容は、奥出雲町で結婚支援の参考とするため、独身の方を対象に実施しています。回答は匿名で集計されます。

1. 性別

2. 年齢

3. 職業

4. 結婚希望の有無

5. 結婚希望の時期

6. 結婚相手の希望条件

7. 結婚相手の希望条件

8. 結婚相手の希望条件

9. 結婚相手の希望条件

10. 結婚相手の希望条件

奥出雲町×オミカレ/
出会いのトビラ！
恋愛力アップデートセミナー

出会い方のヒントを知って
あなたにぴったりの出会いを！

12.13 (土)
13:30-15:00 15:00以降は定員超過の場合は実施

定員：50名

奥出雲町役場
仁多庁舎1階 タウンホール

最新の婚活トレンドやアプリの使い方、地方ならではの出会い方を学びながら、「出会いの難しさ」を克服し、前向きに一歩踏み出すヒントを見つけよう。

多様な出会い方を知って、あなたに合う出会いのきっかけを見つけませんか？

こんな方におすすめ！

- これから婚活・婚活を始めようと考えている方
- 自分に合った「出会い方」を知りたい方
- マッチングアプリが不安になるけど不安な方

お申込み方法
下記申込フォームから必要事項を記入の上でお申込みください。



主催者：奥出雲町つながりづくり協議会
(奥出雲町役場定住産業課内)
連絡先：0856-54-5555

講師 若月 丈二氏
地方創生プロジェクト統括ディレクター
株式会社サトウ・フジノ。東京都港区に本社を構え、従業員約500名。婚活・恋愛・結婚支援サービス「サトウ・フジノ」の企画・運営。奥出雲町では令和7年度にまちなか出会いの創出を目的とすることを目指し、婚活支援の出会いを支援するべく「出会いの第一歩」を支援。奥出雲町の婚活人口増加に貢献する。

**若者の出会いと地域の未来を支えるユーザー・主催者双方に向けた婚活支援
【9/4～11/30 出会い・結婚に関するアンケート／恋愛力アップデートセミナー】**

オミカレ

アンケート回答：26件

セミナー参加者：14名

【奥出雲町】出会い・結婚に関するアンケート

奥出雲町で結婚支援の参考とするため、独身の方を対象に実施しています。回答は匿名で集計されます。

1. 性別

2. 年齢

3. 職業

4. 結婚希望の有無

5. 結婚希望の時期

6. 結婚相手の希望条件

7. 結婚相手の希望条件

8. 結婚相手の希望条件

9. 結婚相手の希望条件

10. 結婚相手の希望条件

【奥出雲町】出会い・結婚に関するアンケート

奥出雲町で結婚支援の参考とするため、独身の方を対象に実施しています。回答は匿名で集計されます。

1. 性別

2. 年齢

3. 職業

4. 結婚希望の有無

5. 結婚希望の時期

6. 結婚相手の希望条件

7. 結婚相手の希望条件

8. 結婚相手の希望条件

9. 結婚相手の希望条件

10. 結婚相手の希望条件

【奥出雲町】出会い・結婚に関するアンケート

奥出雲町で結婚支援の参考とするため、独身の方を対象に実施しています。回答は匿名で集計されます。

1. 性別

2. 年齢

3. 職業

4. 結婚希望の有無

5. 結婚希望の時期

6. 結婚相手の希望条件

7. 結婚相手の希望条件

8. 結婚相手の希望条件

9. 結婚相手の希望条件

10. 結婚相手の希望条件

奥出雲町×オミカレ/
出会いのトビラ！
恋愛力アップデートセミナー

出会い方のヒントを知って
あなたにぴったりの出会いを！

12.13 (土)
13:30-15:00 15:00以降は定員超過の場合は実施

定員：50名

奥出雲町役場
仁多庁舎1階 タウンホール

最新の婚活トレンドやアプリの使い方、地方ならではの出会い方を学びながら、「出会いの難しさ」を克服し、前向きに一歩踏み出すヒントを見つけよう。

多様な出会い方を知って、あなたに合う出会いのきっかけを見つけませんか？

こんな方におすすめ！

- これから婚活・婚活を始めようと考えている方
- 自分に合った「出会い方」を知りたい方
- マッチングアプリが不安になるけど不安な方

お申込み方法
下記申込フォームから必要事項を記入の上でお申込みください。



主催者：奥出雲町つながりづくり協議会
(奥出雲町役場定住産業課内)
連絡先：0856-54-5555

講師 若月 丈二氏
地方創生プロジェクト統括ディレクター
株式会社サトウ・フジノ。東京都港区に本社を構え、従業員約500名。婚活・恋愛・結婚支援サービス「サトウ・フジノ」の企画・運営。奥出雲町では令和7年度にまちなか出会いの創出を目的とすることを目指し、婚活支援の出会いを支援するべく「出会いの第一歩」を支援。奥出雲町の婚活人口増加に貢献する。



29

「有機農業を切り口とした新規就農者誘致および伴走支援」については、9月1日(月)～2日(火)に既存農家へのヒアリングを行い、本町での有機農業等の取組みにつ



(3) 官民連携プロジェクト会議の実施と協働・共創テーマの整理

1) 官民連携プロジェクト会議の実施

令和5年度より庁内全課の各課業務を把握している係長以上の職員が集まり、実施している官民連携プロジェクト会議を今年度も実施した。内容については、レゴ®シリアスプレイ®のメソッドを活用して官民連携について学び合い、マトリックスワークで既存事業を棚卸し、民間と連携することで新たな価値の創造につながる可能性のある事業を洗い出し、優先順位をつけ、実証実験として企業を協働・共創するためのテーマの整理を行った。

ポイントは、官民連携は自分たちの仕事を増やすものではなく、自分たちの仕事が効率化され、自分たち職員や地域で暮らす住民の方々にもメリットがあると体感することと現状の各課の事業を棚卸し、可視化できることにある。

①官民連携プロジェクト会議（令和5年度～）

各課業務を把握している係長以上の職員が集まって、レゴ®シリアスプレイ®のメソッドを活用した官民連携について専門的に学ぶ勉強会を開催。ポイントは官民連携は自分たちの仕事を増やすものではなく、自分たちの仕事が効率化され、自分たち職員や地域で暮らす住民の方々にもメリットがあると体感すること



10

2) 協働・共創テーマの整理

官民連携プロジェクト会議で整理したテーマの中から、地域課題解決のテーマとなる事業については、優先順位が高く、企業と共創することで効果・価値がある事業で、町の総合計画・総合戦略、町がこれから打ち出していきたいテーマ、解決していかなければいけないテーマなどを考慮し、テーマを絞っていった。絞ったテーマについては、各課担当に現状や課題について、ヒアリングを行い、令和8年度に公募するテーマの整理を行った。

公募テーマについては、案として下記に絞り、今後、公募までに精査しテーマを最終決定していく。

- ・「継業」入口づくり（学び・可視化・啓発の事業）
- ・興味関心からはじまる福祉のまちづくり連携ハブ再構築（医療×福祉×地域のコーディネート機能）
- ・外から呼ぶより「中の機運」を高める設計・町民プレイヤー増→自走化までの伴走（視察・研修・実装支援）
- ・学校現場の“伴走型 ICT 支援”チームづくり
- ・教員の負担軽減に直結する運用改善（業務設計×ICT）
- ・世界農業遺産の「全体設計」プロジェクト（ビジョン・導線づくり）
- ・鳥獣害対策の実証（DX 活用・運用モデル化）

1-5 事業の成果と課題

（１）企業版関係人口の創出と官民連携の基盤形成に関する成果と課題

本事業では、官民連携プロジェクト会議において可視化された地域課題をもとに、令和 7 年度は 6 つのテーマを設定し、企業版関係人口の創出を目的とした企業公募を実施した。公募にあたっては、事前相談を必須条件とすることで、町の課題や実証事業の趣旨に対する理解を深めた上での応募を促し、その結果、4 社からの応募があり、継続企業 2 社、新規企業 2 社の計 4 社を採択するに至った。これにより、単年度で完結する関係ではなく、複数年度にわたる継続的な関係構築の基盤を形成することができた。

一方で、事前相談を前提とした公募方式は、事業趣旨への理解度を高める効果があった反面、潜在的な関心企業の掘り起こしという点では十分とは言えず、相談に至る前段階での情報発信やアプローチ手法に課題が残った。また、実証実験に対する成果イメージについて、企業と協働・共創で行うため、期待値のすり合わせに時間を要した。今後は、実証の目的や到達点について、早い段階で企業とすり合わせを行い、実証事業を展開する必要がある。

（２）実証事業の実施による地域課題解決の検証に関する成果と課題

採択した 4 社と連携し、地域課題の解決に向けた実証事業を実施した。スポーツ合宿の分野では、早稲田大学女子ホッケー部をモニターとした 2 泊 3 日の合宿を実施し、競技環境や宿泊、食事、移動等について、監督・コーチ・選手全員からヒアリングおよびアンケートを行った。これにより、奥出雲町におけるスポーツ合宿受入の強みと改善点を具体的に把握することができ、次年度以降の本格誘致に向けた基礎データを得る成果があった。

移住就労促進事業では、都市部求職者向け求人サイト内に町の特設ページを設け、町内企業 2 社の求人情報を掲載した結果、10 件の問い合わせがあったが、実

際の「しごと体験」参加者には結びつかず、情報接触から現地体験に至る導線設計や、参加に伴う心理的・物理的ハードルへの対応が不十分であったことが明らかとなった。

婚活支援事業および有機農業分野では、住民や関係者を対象としたセミナーや座談会を開催し、地域課題の共有や意識醸成を図ることができた一方、成果は主に定性的な段階にとどまり、数値として把握可能な成果の創出には至らなかった。婚活支援事業については、令和8年度に奥出雲町内を会場として、町内外の独身男女を対象とした婚活イベントを秋にトライアルとして実施する。イベントでは、奥出雲町の自然や食など地域の魅力を体験できるプログラムを取り入れ、参加者同士が交流しやすい環境づくりを行う。また、イベントの実施を通じて参加者のニーズや運営方法等を検証し、今後の継続的な実施につなげるとともに、奥出雲町を出会いや交流のきっかけが生まれる場所として広く発信し、「出会いの聖地化」を図っていく。有機農業事業では、町内で有機農業を実践している農業者に対し、販路開拓やブランド化、情報発信等の支援を行い、有機農産物の付加価値向上と収益確保につなげていく。あわせて、奥出雲町で農業に取り組みたい人材を確保するため、引き続き地域おこし協力隊制度を活用し「農の担い手」を募集するとともに、有機農業をテーマとした新規就農者の受入れを進める。さらに、有機農業による新規就農を後押しするため営農定着を支援する助成制度の創設について検討を行う。実証事業全体として、初年度は課題把握と仮説検証を主目的とした段階であり、今後は成果指標を明確に設定したうえで、事業化に向けた検証を進める。

（３）官民連携プロジェクト会議を通じた庁内変化と組織的成果に関する評価

官民連携プロジェクト会議については、令和5年度から継続して実施しており、令和7年度も各課係長級以上の職員を招集し開催した。レゴ®シリアスプレイ®等の手法を活用し、各課の既存事業を棚卸し・可視化することで、民間企業と連携することで新たな価値創出が期待できるテーマを整理し、優先順位付けを行った。その結果、令和8年度以降の公募に向けて7つのテーマ案を具体化することができた。

この取組を通じ、官民連携は業務負担を増やすものではなく、業務の効率化や価値向上につながるという認識が職員間で共有され、組織としての意識変化が着実に進んだ点は大きな成果である。一方で、会議で整理されたテーマは新たな取組であることから、実際の事業として推進する際の体制や役割分担について十分な理解が浸透しておらず、企画段階から実行段階へ移行する過程において調整に時間を要するなどの課題が残った。また、会議運営やファシリテーションについて外部専門家への依存が続いており、庁内で自走できる体制構築が今後の課題である。

（４）連携事業者との継続的な取組みに向けた成果と課題

本事業においては、継続企業2社を含む4社と実証事業を実施することで、町の施策や総合計画を踏まえた対話が進み、単なる実証にとどまらない関係性の構築が図ら

れた点は成果といえる。特に、継続企業については、年度をまたいで課題認識を共有できており、中長期的な連携の可能性が広がっている。

一方で、実証事業終了後の位置づけについては、主担当課や実施体制の整理は進んでいるものの、事業化、継続実施、終了といった判断基準が明確でないため、企業側にとって次の展開が見えにくい状況にある。また、実証後の本格展開に向けては、財源確保や関係課との連携方法について、事業ごとに検討を要するため、今後は、実証段階から出口を見据えた設計を行い、持続可能な官民共創の仕組みづくりを進めていくことが求められる。

1-6 今後の展望

(1) 共創イノベーションタウン奥出雲の構築

1) 官民連携イノベーション人材の育成

令和8年度は、事業がスタートし4年目を迎え、官民連携プロジェクト会議後の職員アンケート（3年間トータル）では、新たな発見や気づきがあった職員が68%、新たな挑戦・変化について回答した職員が44%と、職員の官民連携への意識が変化し企業との共創への意識が高まっており、これらの成果を踏まえ、官民連携の推進を担うイノベーション人材の育成に重点を置き、町職員・地元企業・地域団体を対象にした「内製化プログラム」を実施していく。学習から実践、そして定着までの3段階を通じて、官民連携を町内で自立的に展開できる体制を確立し、「共創イノベーションタウン奥出雲」へと進化をさせていきたい。

- ・学ぶ段階：官民連携リーダー育成研修を実施し、ファシリテーション、企業連携課題抽出の手法を体系的に習得する。
- ・実践段階：研修修了者を中心とした「官民連携推進チーム」が主体となり、実際に官民連携プロジェクト会議を企画・運営し、企業との協働案件を推進する。
- ・定着段階：育成メンバーが会議の進行・調整・テーマ設定を担い、外部専門家は監修・助言のみに留める。体制を庁内・地域内に完全に移行し、地域全体で共創を推進する文化を定着させる。

上記について、これまで3回官民連携プロジェクト会議を実施し、職員は、会議の内容や進め方、アウトプットの方法については把握しているため、ファシリテーションやプロジェクトの進め方については、育成研修により修得をする。また、令和6年・7年度まで外部専門家（㈱IRODORI）が主に行っていた企業へのアプローチや調整等について、令和8年度においては、職員及び地元企業の人材が手法やノウハウを学び、外部専門家（㈱IRODORI）は、アドバイスを行う等にとどめ、職員及び地元企業の人材が主となり実際に自ら企業へのアプローチや調整を行い、実務をとおして修得していく。

このように、これまでの成果を土台としながら、官民連携の担い手を育て、外部専門家への依存から脱却し、町内で持続的に展開できるよう『内製化（内成化）』を進め、『内製化（内成化）』により、イノベーション人材を育成し、町内で自立的に官民連携

を運営できる体制を整備することで、取組を内成化し、継続的な地域イノベーションの推進につなげ、共創イノベーションタウン奥出雲を形成していく。

2) 実証事業の方向付けと展開

実証事業は、1企業あたり最大3年間の取組期間を基本とし、各年度終了時に目的達成度、成果指標（KPI）、地域への波及効果、費用対効果、総合計画等との整合性を踏まえ、「事業化」「継続」「完了」の方向付けを行う。

事業化する取組については、主担当課を明確化し、関係課と連携した実施体制を構築する。必要に応じて予算化や既存事業との整理・統合を行い、町と企業の役割分担を明確にしたうえで、本格実装へ移行する。

継続する事業については、課題を具体的に整理し、ターゲット設定や事業導線、実施手法等を見直したうえで再実証を行う。仮説と検証を重ねることで、実効性の高いモデルへの転換を図る。

完了と判断した事業についても、実証で得られたデータや知見を整理・蓄積し、他分野への展開や新たなテーマ設定に活用する。

今後は、実証段階から最終到達像や3年間のロードマップ、成果指標を企業と共有し、出口を見据えた設計をし、実証で得られた成果を政策形成に反映させる循環型の仕組みを確立し、官民共創による地域課題解決モデルの定着を図っていく。